

詩篇119篇25～32節

- 25 私のたましいは、ちりに打ち伏しています。あなたのみことばのとおりに私を生かしてください。
- 26 私は私の道を申し上げました。すると、あなたは、私に答えてくださいました。どうか、あなたのおきてを私に教えてください。
- 27 あなたの戒めの道を私に悟らせてください。私が、あなたの奇しいわざに思いを潜めることができるようにしてください。
- 28 私のたましいは悲しみのために涙を流しています。みことばのとおりに私を堅くささえてください。
- 29 私から偽りの道を取り除いてください。あなたのみおしえのとおりに、私をあわれんでください。
- 30 私は真実の道を選び取り、あなたのさばきを私の前に置きました。
- 31 私は、あなたのさとしを堅く守ります。主よ。どうか私をはずかしめないでください。
- 32 私はあなたの仰せの道を走ります。あなたが、私の心を広くしてくださるからです。

דְּבַקָה לְעֶפֶר נַפְשִׁי חֵינִי כְּדָבָרְךָ׃
 דְּרָכֵי סִפְרָתִי וְתַעֲנֵנִי לְמַדְנִי תִּקְוֶיךָ׃
 דְּרָבֶךָ-פְּקוּדֶיךָ הִבִּינֵנִי וְאַשְׁיִחָה בְּנִפְלְאוֹתֶיךָ׃
 דְּלִפְנֵי נַפְשִׁי מִתּוֹגָה קִיַּמְנִי כְּדָבָרְךָ׃
 דְּרָבֶךָ-שְׁקַר הָסֵר מִמֶּנִּי וְתוֹרָתְךָ תִּחַנְּנֵנִי׃
 דְּרָבֶךָ-אֲמוּנָה בְּחַרְתִּי מִשְׁפָּטֶיךָ שְׁוִיתִי׃
 דְּבַקְתִּי בְּעֵדוּתֶיךָ יְהוָה אֵל-תְּבַיְשָׁנִי׃
 דְּרָבֶךָ-מִצְוֹתֶיךָ אֲרוּץ כִּי תִרְחִיב לִבִּי׃

ヘブル語アルファベットの第四字「ダーレス」です。ここでも神の「みことば」「おきて」「戒め」「みおしえ」「さばき」「さとし」「仰せ」という語が各節に含まれていますが、もう一つの特徴としては「道」(דֶּרֶךְ/デレク)が頻出する点も挙げられます。冒頭から「私のたましいは、ちりに打ち伏しています」と告白されているように、詩人は何らかの試練に直面していたのでしょう。悲嘆に暮れ、どうにもならない現実に苦しみながら、主に依り頼む祈りをささげたのです。そして、そのような状況下にあっても尚、主の「道」を選び取ろうとしていました。

各節の冒頭に共通して出てくる「ダーレス」で始まる単語を整理しておきましょう。多少の語尾変化を伴いながら、三つの単語が繰り返し用いられていることが分かります。

「דבך／ダヴァク」(25節、31節) …しがみつく、執着する

「דרך／デレク」(26節、27節、29節、30節、32節) …道、距離、旅、作法

「דלף／ダラフ」(28節) …落とす、漏らす、泣く

28節でも「私のたましいは悲しみのために涙を流しています」と言われています。打ち伏し、涙を流す姿の究極として、聖書読者は主イエスのゲッセマネの祈りを思い起こすことができるかもしれません(マルコ 14:32-42)。これから身に降りかかろうとしている集団リンチ、偽りの裁判、十字架刑、そして父なる神様との関係の断絶。主イエスがガタガタと震え、身悶えしながら祈られた姿とどこか重なってこないでしょうか。そして、主イエスはもしかしたら、今日の箇所を何度も唱え、自分の心に言い聞かせていたのではないかと。

- ・ あなたのみことばのとおりに私を生かしてください。(25節)
- ・ どうか、あなたのおきてを私に教えてください。(26節)
- ・ あなたの戒めの道を私に悟らせてください。(27節)
- ・ みことばのとおりに私を堅くささえてください。(28節)
- ・ 私から偽りの道を取り除いてください。(29節)
- ・ 私は真実の道を選び取り、あなたのさばきを私の前に置きました。(30節)
- ・ 私は、あなたのさとしを堅く守ります。(31節)
- ・ 私はあなたの仰せの道を走ります。(32節)

主イエスにとっての「道」とは何だったのでしょか。それはまさしく十字架への道だったのではありませんか。主が自ら進んで苦難の道を選び取り、父なる神様の御旨に従われたことは、私たち信仰者にとっての究極のモデルと言えます。本篇の詩人も苦難の中で楽な道を探し求めたのではなく、主の戒めが何であるかを考え続けました。私たちもこの人生において、重要な選択を迫られることがあるでしょう。そのとき、何を判断基準とするか。それは、日々「主の^{おきて}法」を口ずさんで生きているところに自ずと明らかになってくるはずです。そして、そのように主との交わりの中で示されてきた道を選び取る時、この心は「広いところ」に置かれるのです(32節)。この箇所の最後の部分は、主に聞き従って本当に良かったという詩人の安堵と平安を表しているのでしょう。